

## 磐田市平和祈念式「平和への想い」

1945年8月6日8時15分、この時間に原爆が投下され、広島を、そして日本を絶望に落とし入れました。この出来事を二度と起こさぬように、日本は今までの72年間胸に刻んで進歩してきました。しかしながら、世界は今なお核兵器の脅威にさらされています。僕はこのようなことを考えながら広島へ向かいました。

初日の始めに訪れたのは安田女子校です。この学校では毎日、戦争で亡くなった方々の名前が刻まれている慰霊碑に向かって礼をするそうです。これには「あたりまえのことをあたりまえに思わない。」という意味が込められています。このように戦争の悲惨さを忘れないように過ごしている学校がありとても心に残りました。

その次に原爆ドームを見に行きました。僕はテレビや新聞などで見ることはあったけれど、実際に見るのは初めてでした。実際に見てみて、建物が半壊していたり、まわりのがれきりがそのまま残されており戦争の恐怖や人々の命がうばわれた悲しみなどがリアルに想像できました。それと同時に原爆の爆風から全壊せずに残っていることのすごさや72年間もの期間、平和をつなぐために残してきたことへの驚きを感じました。

1日目の最後に訪れたのは原爆資料館です。資料館に入り最初に目に入ったのは広島が焼け野原になっている風景でした。写真の手前だけではなく、奥まで続く焼け野原に心が痛み、原爆の悲劇さを感じました。その他にも原爆によって焼けただれた服などを見て、当時のことを想像するとゾッとしました。

2日目は平和記念式典に参加しました。まず始めに広島市の市長が平和宣言を述べました。その中で印象に残った言葉が、「72年前広島に『絶対悪』が放たれた。」という言葉です。原爆のことを「絶対悪」とあえて厳しい言葉で表現することにより、二度と起こしてはならないことだということを強調していました。原爆を投下することで得るものはなにもなく失うものしかないのでこの世界に絶対にいないものだと思います。次に代表の小学生2人が平和への誓いを発表してくれました。今の平和は過去に苦しい思いをしてきた人たちが一生懸命生きてきたからあるんだ、という内容に感動しました。しかし、今もなお世界の中では戦争が行われています。戦争の悲惨さや人の命の重さを考えてほしいと思いました。また、この世界の中で日本は世界を平和にしていけることを誓い、今、平和に暮らすことができている。そのことをあたりまえと思わないで日々の暮らしが幸せなことに感謝していきます。

最後に、この世界から核兵器がなくなり、全ての人々が安心して、そして幸せに暮らしていくことができることを切に願うと共に、過去の戦争で亡くなられた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

平成29年8月15日

代 表 金原 誠也（磐田市立神明中学校）